



## 2学期の始業式を行いました

長い夏休みが終わり、9月1日から2学期の学校生活がスタートしました。今年の夏は、特に暑かったので、みんな元気になっていたか心配していましたが、朝から気持ちのいい挨拶をたくさんの子どもたちがしてくれて、とても嬉しくなりました。



保護者の皆様、2学期も力を合わせてこどもたちの成長を支援していきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。始業式では、こどもたちに以下のお話をさせていただきました。

皆さん、おはようございます！

いよいよ2学期が始まりましたね。夏休みは、思いっきり楽しめましたか？日焼けした顔、ちょっぴり大人っぽくなった顔、みんなの笑顔を見ることができて、校長先生はとても嬉しいです。

夏休みには、海や山に行ったり、家族や友だちと遊んだり、色々なことに挑戦したと思います。もしかしたら、新しい発見や、ちょっぴり悔しかったこと、ドキドキしたこともあったかもしれませんね。そのすべてが、皆さんを大きく成長させてくれました。

さて、今日から始まる2学期は、たくさんの楽しい行事が待っています。全校で取り組む運動会、そして、地域に出かける校外学習、そこで見つけたモノ、出来事、人との出会いから問いをつくり、自分自身で考え、行動し、新しい発見をする学習、学年によっては、バスに乗って社会見学に出かけたり、4年生は音楽会に参加したり…。ワクワクする気持ちでいっぱいだと思います。でも、中には「友だちと仲良くできるかな…」「失敗したらどうしよう…」と、ちょっぴり不安に感じている人もいるかもしれません。

今日は、2つのお話をしたいと思います。

一つ目は、これ、「個性」です。

みんなには、それぞれ違う個性があります。絵を描くのが好きな人、走るのが得意な人、友だちの話を聞くのが上手な人、誰かを笑顔にするのが得意な人、静かに本を読むのが好きな人…。

それは、皆さん一人ひとりが持っている、特別な才能です。2学期は、この個性を、もっともっと輝かせるチャンスです。

運動会で足が速くなくても、力いっぱい友だちを応援できる人。

発表で大きな声が出なくても、一生懸命練習する人。

友だちと意見がぶつかったとき、相手の気持ちを考えて優しく話す人。

どの人も、とても素晴らしいです。無理に誰かと同じになる必要はありません。自分の好きなこと、得意なこと、そして「こんな自分に



なりたいな」という気持ちを大切にしてください。そして、友だちの個性も見つけて、褒めてあげてください。「すごいね!」「〇〇ちゃんの〇〇なところ、素敵だね!」そんな言葉をかけ合うことで、みんなの個性が、もっともっと鮮やかになっていきます。

二つ目は、「よっしゃ!」です。

「よっしゃ!」って、どんな時に言いますか?

難しい算数の問題が解けたとき。逆上がりができたとき。なわとびで新しい技が成功したとき。友だちと協力して、大きな壁新聞を完成させたとき。

「よっしゃ!」は、皆さんが何かを乗り越えたり、新しい発見をしたりしたときに、心から湧き上がってくる喜びの言葉です。

でも、「よっしゃ!」は、成功した時だけのものではありません。

例えば、算数の問題がなかなか解けなくても、「できるかも」とひらめいたとき。

なわとびで失敗しても、「次はいけそう」とヒントを得て、努力を続けられたとき。

目標に向かって一步でも1mmでも前に進んだときに、難しいことにもあきらめずに頑張りつづけている自分に、心の中で「よっしゃ!」とつぶやいてみましょう。

二学期は、たくさんの「挑戦」が待っています。友だちと意見が合わなかったり、練習がうまくいかなかったり、思うようにいかないこともあるでしょう。でも、それでいいのです。大切なのは、最初から完璧を目指すことはありません。小さな挑戦を繰り返すうちに、少しずつ前に進んでいくことです。結果ではなく、途中が大切なのです。

友だちの「よっしゃ!」も見つけて、一緒に喜んであげてください。「すごいじゃん!」「頑張ったね!」などの言葉は、誰かの背中を押してあげる、素晴らしい応援の言葉です。

二学期、皆さんの「個性」と「よっしゃ!」で、この稲生小学校を、もっともっと素敵な場所にしていきましょう。皆さんの輝く笑顔をたくさん見られることを楽しみにしています。これで校長先生のお話を終わります。



## 9月9日学校運営協議会報告

9月9日(火)、第2回稲生小学校運営協議会が校長室で行われました。本年度の学校運営協議会委員の皆さんは、以下の方々です。いつも学校を見つめ、ご支援をいただき、本当にありがとうございます。

<委員長> 樋口延枝 様(学校支援ボランティア)

<副委員長> 小林文雄 様(夢ある稲生まちづくり協議会顧問・前会長)

<委員> 水谷忍 様(夢ある稲生まちづくり協議会こども育成部会)

<委員> 飯野光治 様(夢ある稲生まちづくり協議会福祉部会会長)

<委員> 鈴木圭子 様(民生・児童委員)

<委員> 下村郁子 様(学校支援ボランティア)

<委員> 村山昌子 様(地域コーディネーター、夢ある稲生まちづくり協議会前副会長)

<委員> 鈴木正 様(稲生農地水環境を守る会副代表)

<委員> 鈴木美帆 様(稲生小学校PTA会長)

<委員> 辻岡直樹 様(稲生小学校PTA副会長)

【学校施設の状況やこどもたちの様子の視察後にいただいたご意見・ご感想】

- 学校全体として、こどもたちが静かに落ち着いて学習に臨めていて感心した。
  - ⇒ 地域や保護者の皆さん、学校支援ボランティアさんにご支援いただいていることがとても大きい。中堅・ベテラン教員が経験の少ない教員にかかわり、連携が充実してきた。
- 図書館、新館図書コーナーが充実しており、こどもたちが本を読みたくなる環境が整備されている。
  - ⇒ 読書習慣がしっかりと身につくよう、各クラスでこどもたちの実態に応じた工夫と取組を進めてほしい。
- 1年生の成長が素晴らしい。4月とくらべて、座る姿勢もしっかりしており、先生や友だちの話もよく聞いている。
- 全校の下駄箱がとてもきれいだった。靴の端がしっかりと揃えて置かれている。
  - ⇒ 日頃の先生方の指導の成果。また、気づいて揃えてくれている先生やこどもがいるのではないかな。ぜひ褒めてあげてほしい。
- 掃除の時間を参観したが、こどもたちが素直にまじめな様子で取り組んでいた。
  - ⇒ 日常的な評価（賞賛）と、各掃除場所の課題を自分ごととして取り組むよう支援を重ねてきた成果か。きれいになることが喜びとなるように指導をしていきたい。環境・美化委員会の点検活動や取組の成果もあるのではないかな。
- 体育館や各教室にエアコンが入っていて、こどもたちが勉強に集中しやすい環境になっている。
- 6年生教室のこどもの数の多さに改めて驚いた。



【地域のモノ・人とつながる学校の取組状況について】

- 9月3日(水)に、地域の方に多数ご参加いただき、二学期の「地域とつながる学習計画」検討会を行った。地域の方から、取り上げた学習材について具体的なお話を聞いたり、お力を貸していただけるといったお言葉をいただいたりして、心強く感じたという教員の感想があった。
- 分かりやすく教える授業から、こどもたちが学び方を獲得できる授業に、教員も学習観・授業観を転換しなくてはならない。まず、教員が地域を歩き、自分自身で事実を掴み、問いをもって探究活動をしてみる必要がある。その中で発見したことを基に単元構想を改善していく。さらに、実際の授業では、こどもの思考に寄り添い、単元構想を更新しながら授業を進めていきたい。

【保護者・地域のつながりづくりについて】

- 連絡通信システム「マチコミ」の導入等、PTA 役員の皆様の精力的な改善活動・取組の推進により、保護者間の情報共有や、意見交流の場が増えている。コロナ禍で滞った行事や取組も、新しい形で充実してきている。
- 地域の方々は、保護者の皆様に、明日の地域の担い手として一層の地域とのつながりづくりを期待している。
  - ⇒ 地域とのつながりの意義や必要性を、感じられていない保護者も多いのではないかな。日常生活に追われて余裕がないことも要因になっていると思う。
  - ⇒ 学童でのこども同士のつながりから、保護者同士で仲良くなれた。それ以外では、なかなかつながりをつくる機会がない。



- ⇒ まずは、「夢協だより」をしっかりと読んでいただき、地域をよく知っていただければ。その上で、地域行事に積極的に参加して、地域の人とのつながりをつくってくれたら嬉しい。
- ⇒ インスタや HP でも情報を挙げています。PTA でも、PR をしていただければ有難い。「yumekyo2017」で検索してみてください。サマーフェスタや子ども食堂、先日の 5 年生の稲刈りについても掲載しているので、ぜひご覧いただきたい。

## 【白子中学校区統一の取組について】

### (1) 自己肯定感の育成

鈴鹿市の大切にしている4つの非認知能力「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」のうち、「自己肯定感」を高める取組を、白子中学校区全体で進めている。



本校では、5 月と 11 月に4, 5, 6年生児童を対象に非認知能力についてのアンケートを実施して、実態把握に努めている。自己肯定感については、学年が上がるにつれて低下傾向が見られるが、思春期に入り、仲間をより意識するようになり、自分を客観視する力も育ってくるのが原因である。それゆえ、自己を肯定できるよう、大人も含めた周囲が共感・肯定的な言葉掛けをすることが必要である。

また、本年度は、児童一人ひとりの非認知能力についてのアンケート結果を担当が把握し、個別的・集団的な指導・支援を行って、その成果を 11 月のアンケートで検証することになっている。

8 月 25 日(月)、白子中学校区小中学校合同の職員研修を行った。そこで学んだ内容を二学期の実践に活かしていく。(詳しくは、5 ページの記事をご覧ください。)

### (2) 生活習慣改善週間

メディアに関する 1 学期の取組において、自分で立てた目標を達成できた児童の割合が 39%に留まったのを受け、保護者の皆様にご協力いただいたアンケート結果(学校だより 5 号参照)について意見交換を行った。今後、PTA でも保護者世帯の家庭状況を調査・分析したり、連携した取組ができないか検討したりしていただくことに。

豊明市の条例「大人もこどもも、1 日 2 時間以内」についても、話題に上がった。

- スマホを夜遅くまでやってしまったり、グループ LINE でのトラブルが起こったりしている。PTAや学校運営協議会などが、ルール作りや提言ができればよいが。
  - LINE でのトラブル対応は、家庭教育の範疇だと考えるが、学校が解決を求められることが増えている。
  - こどもが、タイピングゲームをずっとしている。2 時間以上は禁止になったら、家に大人がいない家庭では、大変ではないか。
  - パソコンを禁止にしたら、こどもたちは何をしたらいいのか。パソコンの代わりにすることを提案できるのか。学童へ行っている子はいいが、放課後一人で過ごしている子に、どういった場を提供してやれるのか。「場」があれば、親や子のつながりもできる。こどもたちの居場所づくりも必要。昔のように、同じ地域だからといったつながりは少ない。スポーツ少年団のような場のつながりはあるが。こども会も、通年の活動はなくなっている。
  - パソコンの代わりに、「本を読もう」と伝えてはどうか。地域に、小さな文庫をつくってもらっては。
- ⇒ 各委員さんにそれぞれの立場からお考えいただき、次回も継続して意見交換を行います。

## 白子中学校区学校職員合同研修

### 自己肯定感を涵養するポジティブ行動支援(PBS)

8月25日(月)、白子中学校区の学校職員で合同研修会を行いました。講師は、近畿大学総合社会学部准教授の対香奈子先生です。対先生は、日本ポジティブ行動支援ネットワーク理事、おくりあい代表を務めてみえます。

そこで学んだ「ポジティブ行動支援(PBS)」を、白子中学校区のそれぞれの学校で取り組んでいくことになりました。ご家庭や地域での教育にも役立つ内容だと思いますので、紹介させていただきます。



こどもたちの「望ましくない行動」を見かけたら…

(例)宿題をやらずに、ゲームをしている。

⇒「何度言ったら分かるの。」と注意をしたり、叱ったりするなど、個人の自覚や資質、努力不足の問題だと考えることを「個人攻撃の罠(わな)」と呼んでいる。「個人攻撃の罠」は、一時的な効果はあっても、本人の意欲にはつながりにくい。さらに、自己肯定感を下げ、人目を気にしたり、陰で望ましくない行動をしたりするようになる可能性さえある。罠にはまらないよう気をつけ、環境(AとC)に原因があると考えて対応する。

行動の前

行動

行動の後

A



B



C

先行刺激

結果(周りの反応)

⇒望ましくない行動が現れるのは、「ゲームが目に入る所にある」※1「ゲームがすぐできる状態になっている」※1「机が散らかっており、宿題をするために片付けから始めなければならない」※2といった「A」が原因かもしれない。

⇒「ゲームをすることで楽しい気分になる」※1、※3「ラスボスを倒せば、友だちに自慢できる」※1「宿題をするのがしんどい」※2、※3「ゲーム中は宿題の苦痛から逃れられる」※1、※3といった「C」が原因になっているかもしれない。

※1 「強化の原理」獲得のメリット、回避のメリット

※2 「弱化の原理」災いのデメリット、損失のデメリット

※3 「60秒ルール」結果が直後であればあるほど、影響力を強くもつ。



つまり、ある行動が「起きやすい」「起きにくい」のは、「強化の原理」や「弱化の原理」が働いているからである。宿題をすることは、すぐに「学力が上がる」といった結果を実感することができないことが多い。そこで、「大人のポジティブなフィードバック」が必要である。また、「宿題をきちんと終えたら、30分ゲームができる」といったルールによって、すぐに結果を与えてあげることにより。

## ポジティブ行動支援（PBS）では、「望ましい行動を増やす」ことに注力する

- ⑥目標（ビジョン）をもつ＝「2 学期の終わりに、どんな姿になってほしいか」
- ①増やすべき行動を本人と一緒に具体的に決める
- ②なぜ必要か、どのくらい大切なのかをしっかりと理解・納得させる
- ③「よい例」と「悪い例」をやって見せる
- ④こどもたちに実践を通して繰り返し練習させる
- ⑤ポジティブなフィードバック

### ＜ポジティブなフィードバックのスタイル＞

**もちあげスタイル**：「すごいね」「さすがだね」

**感謝スタイル**：「ありがとう」「助かったよ」

**そのまま言うスタイル**：（嬉しそうに）「〇〇していたね」「〇〇しようとしていたね」

.....

学校でも「ポジティブ行動支援（PBS）」を実践していきます。ご家庭でも、ぜひ「ポジティブ行動支援（PBS）」を一緒に進めていきましょう。

